

◎調和と希望の仏法——「人間の宗教」の時代へ

ここに、仏道修行の本来の在り方が、端的に示されています。最後まで正しき信心を全うし、真実の勝利の人生を歩み抜くためには、自分を支えてくれる「善き友」、すなわち「善知識」の存在が絶対に必要なのです。

(『調和と希望の仏法——「人間の宗教」の時代へ』 86 ページ)

◎随筆 希望の大道

善知識とは、善き師匠であり、更には仏道修行を貫く上で支えとなる「善友」である。創価学会が善知識の集まりとあってよい。

そのために、先輩として心掛けたいことは「共に」という一点である。

共に祈る。共に学ぶ。

共に語る。共に歩く。

「共に」という心と行動のなかに、日蓮仏法の真髓の精神がある。

(『随筆 希望の大道』 247 ページ)